

系碕神社新報

第 242 号

令和 8 年 4 月 10 日

系碕神社

三原市系碕 8-10-1

Tel. 0848-68-0102

発行 系碕神社事務局

責任編集 宮司 松本 圭

十三参り (じゅうさんまいり)

十三参りは関西で盛んな習慣です。当地では馴染みが薄かったのですが、徐々に、当社にも十三参りで参拝する方が増えてきました。数え年が十三歳になった旧暦三月十三日の前後に、神仏から智慧を授けてもらうためのお参りが十三参りです。現代では、ちょうど、小学校を卒業して中学に入学する年の春に、中学校、そして、その先の高校、大学などでの学業の成就を祈願するお参り、ということになります。



元々は、虚空蔵菩薩という、人々に知恵と記憶力を授ける菩薩様に対する信仰に由来するお参りで、空海（弘法大師）が、虚空蔵求聞持法という荒行（虚空蔵菩薩の真言を百万回唱える）を修めて飛躍的に記憶力が増大させたことに因んだお参りなのだそうです。なぜ数え十三の年にお参りするようになったのかですが、平安時代、数え年十三歳を迎えた清和天皇の成人の儀が、虚空蔵菩薩を御本尊とする京都嵐山の法輪寺に行われ、知恵を授かることを祈願したことに由来しています。このような事情により、現代でも、法輪寺が関西における十三参りの中心です。



法輪寺の十三参りには、なかなか「含み」がある粋な習わしがあります。法輪寺は京都嵐山を流れる桂川（大堰側）のほとりになりますが、十三参り

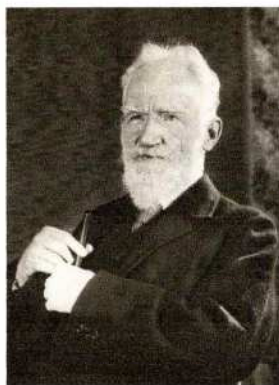
の参拝者は、桂川にかかる渡月橋を渡って法輪寺にお参りするのですが、帰路では、境内を出て渡月橋を渡り切るまでは「後ろを振り返ってはならない」のだそうです。「若者よ、前へ前へと進め！振り返る（後悔する）には早すぎるぞ！」という暗示なのでしよう。

お寺に詳しくない者がこれ以上お寺の話をして馬脚を現すだけだと思つので、当社における十三詣りについてお話ししましょう。

系碕神社の主祭神は、応神天皇（品陀和氣命）、神功皇后（息長帯荒御魂）、仲哀天皇（帯中津日子命）の御三柱です。その中の品陀和氣命（応神天皇）は、またの名を八幡大神。古くは、朝廷の守護神にして武家の守り神、戦いの神様でした。また、応神天皇はご在位中、新技術や学問を海外から導入して国の発展に努められたと日本書紀が伝えるところですから、現代では、昔からの「武」神としての面に加えて「文」にも通じた文武両道の神様として崇敬されています。

系碕神社の十三詣りでは、文

武両道の神様である八幡大神と品陀和氣命をはじめとする大神様たちに、児童（小学生）を卒業して若人（中学生）としての門出を迎えた方々の、学業をはじめとする様々な業の成就と、揚々たる前途を祝福していただきますよう、ご祈願を行っていただきます。学生服や晴れ着で正装して十三詣りに来られる学生さんたちに接するたびに、輝くような気を感じて、頼もしく、また、羨ましく感じます。



「若さは若いやつにはもったいない」と、イギリスの作家バーナード・ショーは言いました。実際、若さというものを羨ましく思います。我が身を振り返ってみるに「時間も元気もたっぷりあったのに、なぜもつと勉強しなかったのか？スポーツや趣味にも、もつと打ち込めたはずだったのにな」と。しかし、バーナード・ショーは、こうも言

・世の中に 絶えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし(在原業平)

※咲くのは明日かあさってか？見頃はいつ？などと気を揉んでいるうちに散ってしまいますね。

・散ればこそ いとど桜はめでたけれ 憂き世になにか久しるべき(詠み人知らず)

※業平に対する返歌。「パッと散っちゃうから良いんだよ。土台、この世のものの輝きは短い」

っています。「若い頃にやったことの十のうちの九つは失敗だったと後で分かった。だから十倍努力した」。後悔などは後知恵であって、後になってみないと何が正解だったのか分からないのが普通でしょう。世の中には、ダルビッシュ投手のように「後悔を先取りする」凄い人も居ることが居ますが。

ダルビッシュ投手は、若い頃に鍛錬を怠った結果としてクビになって後悔しきりの四十歳の自分という未来像を思い描き、そして、その四十歳の男が、「もし若返ることができたら、今度は必ず頑張ります」と神様にお願ひして若い頃に戻してもらったのが今の自分なのだ、という、タイムトラベラーのような人物設定を自らに与え、一日一日を大切に過ごして鍛錬を重ねてきたそうです。凄いですよね。頭が下がります。

しかし考えてみれば、さほど若さを羨むこともないようにも思えます。今だから分かること、今だから出来ることも少なくともありませんから。そして、これを読んでいる皆様も私も、「これからの人生で、今が一番若い」

のですから。さて、その若さを使って何をしましょうか？考えただけでもワクワクしてきますね。ワクワクしながらご機嫌良くお過ごし下さい。

ホームページについて

昨年末、インターネット上に糸碓神社のホームページを開設しました。このホームページは、単に業者に委託して制作したものではなく、糸碓神社にご縁の深いクリエイターの方々が中心となって制作されたので、思い入れが違います。出色というか、頭ひとつ抜けた完成度になったと思っています。本当にありがたいことです。そのホームページの効果もあつてか、土日はもちろんのこと、平日でも遠方からお参りされる方が増えてきたようです。

このホームページには、糸碓神社で行われる恒例の神事・行事を収録した動画を掲載していますが、このたび、二月末に齋行された疫神祭の動画が掲載されました。

これにて、①夏越大祓(六月三十日)②秋の例大祭(十月半ば)③初詣(二月一日)④節分豆まき(二月初め)⑤疫神祭(二

月末)といった、主な神事・行事の動画が揃いました。



腕利きのプロカメラマンが撮影・編集していますので、脚色や誇張も無いはずの、ありのままの様子を収録した動画であるにも関わらず、躍動的で美しい動画に仕上がっています。是非ご覧になって下さい。祭りの準備や神事に参加された方々が映っています。多分、「エ？これワシ？わしゃあ、こんなにカッコ良かったんか？」と、驚かれ

るのではないかと期待していません。このホームページに関して、先日、或る新聞社の取材を受けました。近いうちに記事になると思います。

糸碓天神社例大祭について

○天神社役員会

三月二十九日(日)午後一時半から、糸碓神社社務所にて行われました。

○天神社総代会

四月五日(日)午後二時から糸碓神社参集殿にて行われました。予定

○天神社例大祭準備

四月二十五日(土)、午前九時御社殿の装飾などを行います。糸小校区十二町内会の各町内会から三名ずつのご協力を御願ひしております。宜しくお願い致します。

○天神社例大祭

四月二十六日(日)
午前九時半〜 大祭神事
午前十時半〜 ビンゴゲーム

※当日準備は八時半から行いますので、運営に参加される方は、それまでにお越し下さい。

※※雨天の場合は、ビンゴゲームは一中の体育館で行います。

以上 糸碓神社宮司 松本圭